

備前市施策評価シート

【令和2年度作成】

施策名 (小項目)	高校教育における柔軟な学びの場の提供	決算書 P180-183	(款)10 教育費 (項)4 高等学校費
コード	01-01-05	作成者	教育振興課長 大岩伸喜 学校教育課長 岩井典昭

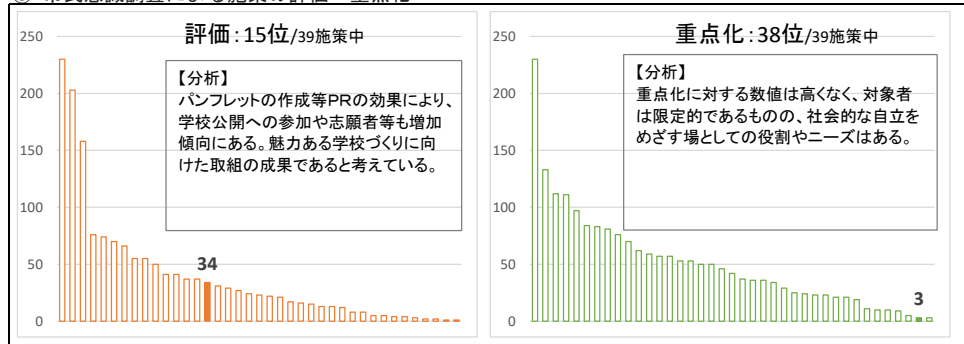
この施策の アピール ポイント	東備地域唯一の定時制高等学校である片上高等学校の運営に係る事業である。
-----------------------	-------------------------------------

この施策の 平成31年度の 施政方針	高校教育における柔軟な学びの場の提供につきましては、備前市立である片上高等学校において、就労する力や人間関係づくりの力を育むため、市内事業所や地域と連携した取組を積極的に進めてまいります。 また、このような取組を市内外に広く周知し、入学を希望する生徒を増やす方策について引き続き、魅力化等検討を行ってまいります。
--------------------------	---

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想（大項目）	重点施策「教育」
	基本計画（中項目）	将来を担う人材が育つまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	勤労青年だけでなく、多様なニーズや目的をもって入学する生徒に対し、社会的自立を目指す場として魅力ある教育活動を展開する。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	設立当初は地場産業を支える勤労青年のための学校という役割を担っていましたが、近年は、不登校であった生徒や中途退学した生徒が、自分のペースに合った学校として、リスタートする割合が増えています。将来の自立に向け、多様な子どもたちの選択肢の一つとしての新たな役割を担っています。 しかし、近年、入学する生徒が減少する傾向にあることから、特色ある定時制高校として教育課程の編成等を行い、生徒の新たなニーズに対応する必要があります。また、入学した生徒が卒業する割合は現状値で83%であり、途中で高校生活を断念する割合が高い傾向にあることから、生徒に高校の意義を理解させる取り組みとともに、魅力ある学校づくりが課題となっています。 また、雇用状況の悪化から、卒業時に進学や正規就職が決まっている割合が現状値で90%と、以前に比べ改善してきていますが、より生徒の希望に応じた進路選択が可能になるよう、進路指導をはじめとする相談体制も充実させていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> きめ細やかな指導 魅力ある学校づくり 教育環境の整備 経済的負担の軽減 	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

成果指標	施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H29	H30	R1				
成果指標	入学試験の志願倍率	目標	倍	0.60	0.60	0.60	倍（入学志願者÷定員）	R2	0.6
		実績	倍	0.28	0.40	0.50		R4	0.8
		達成率	%	45.8	66.7	83.3			
		ベンチマーク	—	—	—				
参考指標①	入学時の生徒が卒業する割合	目標	%	72.00	72.00	72.00	%（入学者数÷卒業者数）	R2	80.0
		実績	%	63.0	78.00	83.00		R4	80.0
		達成率	%	87.5	108.3	115.3			
		ベンチマーク	—	—	—				
参考指標②	進路決定の割合	目標	%	50.0	50.0	50.0	%（（進学者+正規就職者）÷卒業者）	R2	75
		実績	%	91.7	85.7	90.0		R4	75
		達成率	%	183.4	171.4	180.0			
		ベンチマーク	—	—	—				
参考指標③		目標						R2	
		実績						R4	
		達成率	%						
		ベンチマーク	—	—	—				

⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
産業観光課	新規卒業生合同就職面接会・合同企業説明会等	卒業後の就労支援等

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断理由（なぜ、そのランクと評価したのか）	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	4	一昨年度、入学試験の志願倍率の目標値を現実に応じて下方修正したが、現状を考えると当面の目標値としては妥当である。入学時の生徒が卒業する割合は、生徒の成長を支援する学校の努力と生徒個人の意欲が反映されることから妥当性がある。進路決定の割合についても、学校の進路指導の目的と合致しており、卒業生のニーズにも合っていることから妥当である。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か？	3	県立高校の施設を間借りしており、制約の多い中で教育活動を営まざるを得ない状況がある。市内生徒の占める割合が低い中、魅力化検討委員会からの提案を受け、地域を意識した教育活動の推進に取り組むとともに、パンフレットを作成し、学校のPRを強化している。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期的達成見込みは？	3	県立高校の二次募集が多い中、片上高校を第1志望とする生徒が増加に転じ、志願倍率も上昇した。パンフレットの作成・配布とともに、学校公開を通して、授業規律の確立や特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり等、学校の取組の周知が進んだ成果が現れてきており、さらに学校の特色を周知することで目標達成も期待できる。	
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)		義務教育段階で不登校を経験した生徒や特別な支援が必要な生徒が多いことから、特別支援教育の視点を大切に授業づくりに継続して取り組んでいる。また、片上高校魅力化検討委員会での協議内容を参考に卒業後の進路を踏まえた教育活動の充実にも取り組んでいる。こうした取組の充実のためにも、非常勤講師の配置等、市費による人的支援の充実は効果を上げている。	
翌年度(R3年度)の取組目標		片上高校は、主に東備地域の不登校生徒等、特別なニーズをもつ生徒にとって、貴重な進路となっている。施設面や人的な面での支援について、大幅な改善は困難であるが、片上高等学校で目指す教育内容を明確に打ち出し、受験生や在校生にとって魅力ある学校づくりを目指すとともに、中学校や受験生・保護者に対しても分かりやすい周知を心掛ける。	
二次評価者コメント		東備地域で唯一の夜間定時制高校である市立片上高校の果たす役割は大きい。 片上高等学校魅力化検討委員会における検討結果を踏まえ市内外から認められる学校づくり、片上高校の魅力化に取り組んでいく。	基本施策への 貢献度 3 中立

役職	教育部長
氏名	田原 義夫